

平成 16 年度  
新庁舎における市民利用施設検討委員会  
**第2回ワークショップの記録**

平成 16 年 7 月 31 日 (土曜日) 午後 1 時 30 分

今年度のワークショップ (以下、WS) としてはグランドワークを挟んで 2 回目となります。  
今回のワークショップは、まず、グランドワークの成果発表を聞き、得られた情報を委員全員で共有することとしました。



7 月 22 日に実施したグランドワークの成果品から、調査した市役所、保健福祉センター、コラッセふくしまの 3 ヲ所に関して、「気付き」の写真記録集から各グループ各々の場所について 9 枚ピックアップしたものを模造紙に貼り付け展示し、その成果品をバックに調査を通して感じたポイントを発表しました。

3 つの班からそれぞれ発表を受け、グランドワークから得た情報を共有した後、ワークショップ作業に入りました。

●第 2 回 WS のテーマは、「市民広場」の基本形を考える。

これまでの WS で考えてきた「市民広場の機能」は、

- |                     |
|---------------------|
| - 「市民活動 (イベント) 広場」  |
| - 「市民参加の (手づくりの) 庭」 |
| - 「交通体系との連携のとれた空間」  |
| ~ を前提とした「市民の安全広場」   |

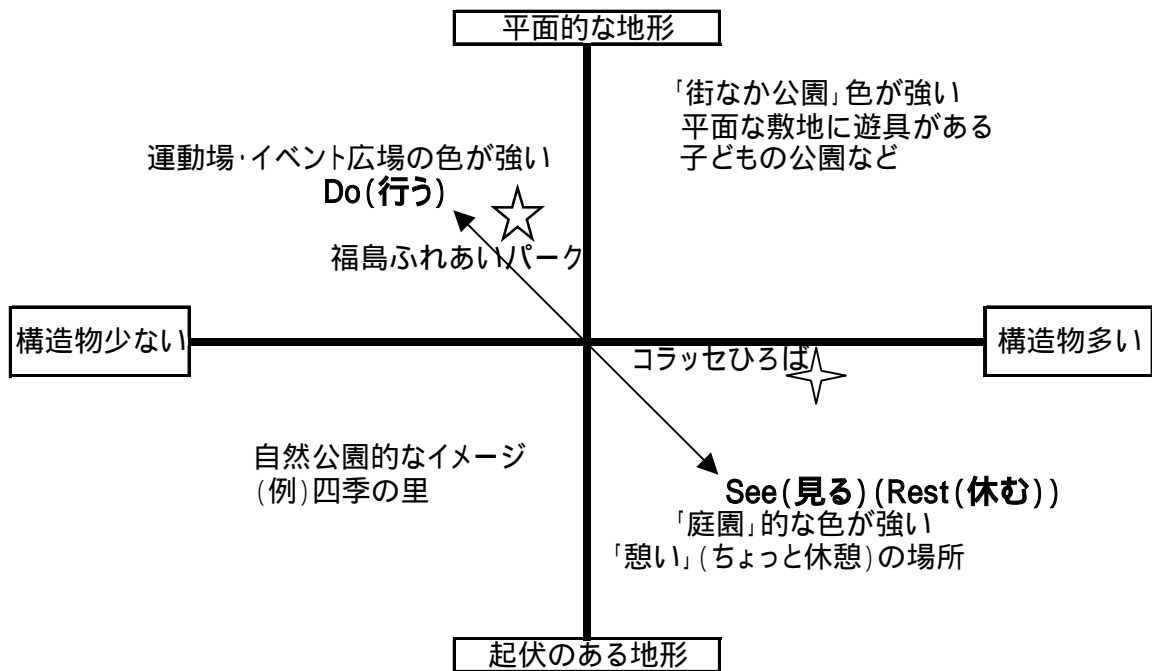
現段階で想定し得る広場の状況 (基本構想からの情報) と WS で議論してきた「市民広場の機能」を踏まえた上で、基本形として、構造上一度作ってしまったらやり直しが難しいものを主体として考えることとしました。

●考えるポイント 1 : 誰がその場所の利用者となるのか?

●考えるポイント 2 : Do (行う) なのか、See (見る) なのか?

●考えるポイント1と●考えるポイント2を整理すると下記のマトリクス の通りとなり、今回のWS作業を進める上では、「Do(行う)」と「See(見る)」の2つの対角事象にある考え方のどちらを求めるかが、議論の中心となりました。(マトリクスとは一般に、縦横の軸ごとに相対する事象(構造物が多いと少ないなど)を配置し、考え方を整理した図表を言います。)

### グランドワーク記録から広場を考える「視点」として



Do(行う) : 利用する場所として考えた場合 平面で構造物は少ない

See(見る)(Rest(休む)) : 憩いの場所と考えた場合 構造物(ベンチや植栽、水辺)は多くなる

議論は下表の項目に関して、全体のイメージを固めてから各論に入るか、各論を積み上げる形で全体を作り上げて行くかは、それぞれ班の司会役の判断で進められ、自由にそして活発に行われました。

基本の基本として、「ユニバーサルデザイン」「環境仕様」は一貫したコンセプトとしました。

広場を「	…	…	…	なふう」に利用したいから
地形は	平面	なのか	起伏(地形に造作)	があるのか 一部組み合わせるのか
地面は	舗装(アスファルト、コンクリート、レンガ、木のデッキ)	なのか	芝生	なのか
植栽は	大きな木を植えるのか	木陰ができる程度の本数が必要なのか	草花の植え込み程度でよいのか	
構造物	(ベンチ・水辺などは)	多いほうがいいのか	少ないほうがいいのか	
	ベンチはどこに置くのか	「バス停や通路」なのか	「木陰」なのか	「広場の隅」なのか
	ベンチはどれくらい置くのか	「たくさん」なのか	「最小限」なのか	
	水辺の環境は	「噴水」がいいのか	水路を通すのか	遊び場的な水場にするのか
通路は	中を通すのか	辺に取り付けるのか	特に設置せず中を歩けるようにするのか	
駐車場	とのつながり方は	完全に分けるのか	一部流動的にするのか	いつでも駐車場に変わるのか

議論が活発になればなるほど、身振り手振りのジェスチャーが目立ってきます。



### 【議論の成果をまとめ】

あらかじめ用意されたキーワードを繋ぎ合わせたり、自分たちの言葉でまとめたりと、書込み担当の委員は大忙しでした。



細かい作業に活躍する女性委員の皆さん

### 【本日の成果発表】

議論がどのように纏ったのか、班の考え方の特徴を出しながら、皆さん丁寧に発表されました。



### 発表内容の特徴としては、

- 地形は、平面が使いやすく、起伏が若干あっても良い（景観的、庭的なものとして）
- 地面は、人に優しい素材（芝生やラバー舗装など）が良い
- 植栽は、シンボリックな樹木があると良い（周辺には花木や木陰があると良い）
- 構造物は、水辺の造作と休憩場所としての東屋とベンチ、レンガ通り
- 通路は、自由に歩けるように通路は設けない
- 駐車場とのつながり方は、隣接させ、一部流動的にする（安全面への配慮を十分に）

発表後、3つの班から提案された「市民広場の基本」のうち、1つを投票で選ぶ作業をしました。



**僅差で見事第一位に選ばれたのは  
第1班：なんじゃもんじゃ班の提案でした。**

今後、この提案を核にして、  
各班から出た意見も取り入れながら  
市民広場を考えていくこととなりました。

最後にアドバイザーの 福島大学 山川充夫 副学長からコメントをいただきました。



投票結果が全てですね（笑）。具体的な意見がたくさん出てきました。ほかの班の良いところを第一位の班の成果に反映させてさらに良いものにしていければと思います。

しかし、最初にお金をかけて完璧なものにしてしまわない方が良いかとも思います。様々な使い方ができる造作を念頭に、維持管理と初期投資に関して意識しながら、いっぺんに作ってしまうのではなく、少しずつ良いものを時間をかけてみんなで作っていくことも良いのではないのでしょうか。作り上げていく過程で、私たちがこの空間をどのようにデザインしたのか、その気持ちそのものが利用の仕方に現れてくるのだと思います。